

# 平成30年度 みらいホーム 事業実績報告書

## 1 総括

みらいホームは、入居者が現在また将来に渡って、安心、安全に暮らせる場所であることを目指して事業を行ってきた。この目標に向けて毎年、役割の拡大や支援の充実に取り組んできたが、30年度においても同様に、家族の担ってきた生活のコーディネート機能を段階的にホームへ移行し、支援内容を拡充することを重点課題とした。家族の状況の変化により30年度は2名の方の生活全般の支援をホームに移行したが、これまでと同様、計画的というより必要に迫られてのことであり、対処療法的な動きとなった。しかし、このような入居者が年々増えていく中で、経験から必要な支援内容や方法も徐々に見えてきている。このノウハウを活用し、次年度は全入居者の移行計画の作成を行いたい。

また、30年度は、グループホームの整備計画を進めることをもう一つの重点課題として掲げた。本人、家族にとって住まいの問題は地域生活の上で最も重要なテーマの一つであり、法人としても最優先課題として取り組んだ。その結果31年4月に女性用グループホーム「カトレア」の開設が決定した他、令和3年度（2021年度）に新規ホームの開設を計画し、用地確保に向けた準備など行うことが出来た。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム（ユニット：アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹）
- 2) 事業種別 共同生活援助（介護サービス包括型事業所）
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 運営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 24名
- 6) 利用現員 24名（平成31年3月31日現在）

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	7名	7名（内男性4名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性5名、女性2名）

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 9) 職員（平成31年3月31日現在）
  - 管理者 1名
  - サービス管理責任者 1名（兼務：常勤換算1.0）
  - 世話人 15名（常勤換算11.2）
  - 生活支援員 17名（常勤換算9.5）

## 3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望のもてる生活

## 4 基本方針

- 1) 安定した日常生活の保障
- 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 3) 入居者の相談支援
- 4) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供

- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

## 6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

## 7 重点課題・目標に対する評価

### 1) 活動

#### (1) クローバー移転後の環境変化への対応

移転先での新生活の状況を確認し、入居者の希望に沿った生活が送れるように支援する。

#### 【成果と課題】

移転とともに定員を2名増の7名としたが、入居者同士も良好な関係が築けており、新生活は順調にスタートすることができた。新規2名の入居者は、グループホームでの生活は初めてであり、当初は戸惑いや動揺が見られていたが、時間の経過とともにホームで穏やかに過ごす時間が増えている。また、他の5名については、通所先や会社への通所方法や週末の自宅への帰宅など、希望通りこれまでの生活を維持することができた。

#### (2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能拡大

家族が担っているコーディネート機能のホームへの段階的移行を実施するため、各入居者、家族との面談を実施し、将来希望する生活の形について希望を聴取する。また、希望する将来に備え、現在入居者の大半の家族が担っている生活のコーディネートの役割を徐々にホームに移行させていく必要があることから、本人、家族と相談の上、コーディネート機能の移行計画を作成する。

#### 【成果と課題】

全入居者24名中7名（昨年度より2名増）に対し、日常生活支援のほか、行政手続き、小遣い管理、日用品等の買い物、障害福祉サービス事業所等との連絡調整、病院や美容院の同行などを行ない、個々の状況にあった丁寧な支援が行えたと感じている。ここ2年、ホームを中心にして生活の支援を行っている入居者は2名ずつ増えているが、いずれも家族の環境の変化により必要に迫られた形で支援をスタートしているケースである。多くの家族が「そのうちにホームへ支援をお願いしたいが、今はまだ家族が行う」という意向であるが、入居者及び家族の高齢化を考えると、段階的に支援機能をホームへ移行していくことが課題である。

#### (3) 入居者の生活の質の向上

家族、関係機関、ホームまた職員間で入居者の情報を共有し、入居者の生活を丁寧且つトータルに支援できるよう取り組む。

##### ①家族・関係機関との連携・情報共有

- ・家族および後見人等と必要に応じて電話連絡または連絡ノートにて情報を共有する。
- ・日中活動先、職場、就労生活支援センターほっと、地域生活支援センターあさやけ、自立生活支援センターひびき等との連絡を密にし、生活に全般に渡る支援について連携を図る。

### 【成果と課題】

体調不良や気持ちの落ちこみなど日々の生活で入居者の様子に変化がある際は、職員間で共有し、継続して見守りが行えるよう支援にあたった。また、必要に応じて、通所先の事業所や家族へ相談し、原因や解決方法についてアドバイスを受けるなどした。生活場面においては、居室の清掃および室温設定、気温に応じた服装管理などに配慮したが、清掃が行き届いていないことや、季節の変わり目などの服装について、年度途中にご家族から指摘をいただくことがあった。年度後半に清掃のポイントや入居者個別の体感についてユニットの担当職員が継続して職員へ伝達することで改善を図った。

#### ②職員間の連携・情報共有

- ・月1回の定例会議におけるケース検討に全職員の主体的な参加を促す。
- ・入居者予定表・ケース記録・業務日誌への記入と確認の徹底を行う。

### 【成果と課題】

4ユニット中、3ユニットについては、月1回の定例会議を実施したが、花の樹については、職員のスケジュールが合わず年3回の実施となり、担当職員からの引継ぎ等によりケースの共有を図った。上半期は、日常の業務連絡や申し送り事項については口頭または、連絡ボードで行っていたが、9月以降、書面に記録、保管する方法に変更し、より正確な伝達が行えるようになった。

#### (4) 地域の住まいのニーズへの対応—女性用グループホームの開設準備

女性用グループホーム開設準備会を中心に平成30年度中の開設に向けて準備を進める。

- ①入居者の選定—定員7名
- ②利用料等の決定
- ③新生活移行への入居者個別面談の実施
- ④設計図の完成
- ⑤建設業者の選定
- ⑥東京都施設整備費補助事業申請

### 【成果と課題】

女性用グループホームについては、計画通りに設計図が完成し、建設業者の選定および建設工事を着工し、2月末に竣工することができた。また、東京都の通所施設等整備費補助金29,609,000円を受けることができた。入居者については、選定した7名と個別面談を実施し、個々の意向を聴取しながら、新生活の準備をすすめた。

新たな計画として、令和3年度(2021年度)に、定員7名の2ユニット計14名に、ショートステイ1床を加えたホームを開設する準備(小平市との打合せ、東京都へ補助金の相談、候補地の選定、建物建設資金計画の策定など)を開始した。

## 2) 人材育成

### 《到達目標》

#### (1) コーディネートの担当職員—対象者2名

- ・全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を身につける。
- ・全職員に支援方針を明確に周知し、方針に基づいた支援の実行を徹底させる。
- ・課題を発見し、具体的な改善策を提案する力を身につける。
- ・多角的な視点による、適切な判断基準を身につける。
- ・給付費および都加算請求の知識を身につけ実践する。
- ・経理全般の知識を身につけ出納業務をミスなく実践する。
- ・地域の社会資源の状況、成年後見、生活保護法等の学習会に参加し入居者の生活相談を受けられる知識を身につける。

### 【成果と課題】

コーディネートを行っている2名の職員については、他の職員への指導、職員の合意形成、支援現場における具体的な改善策の提案、家族や関係機関と連絡調整などが行えるようになってきている。また、障害者施策の学習会に参加し、制度に対する知識の向上が図られた。中長期的な生活課題の整理や運営面に関する給付費および経理等に関する知識の習得についてはまだ不十分であるため、次年度学習会の実施により、知識の習得を行う。

#### (2) 世話人・生活支援員

##### 《到達目標》

- ① 職員の情報共有を徹底し、一貫性のある支援を行う。
  - ・ケース記録を不備なく正確に記録できるようにする。
  - ・ケース記録の確認を習慣化し、申し送り事項を遵守する。

### 【成果と課題】

職員間でコミュニケーションが良くとれており、支援方針は共有されていたが、上半期の振り返りにおいてケース記録の記載が支援計画に沿っていない、また事務連絡が混在して記録されているなど、支援経過の記録に課題があった。10月以降に支援計画の再確認やケース記録の書式の変更を行い、支援経過に沿った記録をとれるようになった。

- ② 事故防止を徹底する
  - ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。

### 【成果と課題】

4月にクローバーにて朝食後の服薬漏れが一件あった。入居者の外出直後に発見されたため通所事業所にて服用し大事には至らなかった。移転後1週間以内に起きた案件であり、慌ただしさの中でマニュアルが遵守されなかったことが一番の要因である。服薬担当職員による服薬準備、他の職員による二重の確認、服用時の見守りについて再度マニュアルの徹底について職員間で確認し、これ以降、誤薬は防げている。

## 3) 経営管理

- (1) 将来に向けたグループホームの適正規模(定員数、ユニット数、新規事業所数、コーディネート職員の配置数など)について試算する。

### 【成果と課題】

新規ホーム「カトレア」を含んだ平成31年度の収支予測は年間約150万円の黒字となる見込である。なお、平日の日中支援なしで、全入居者31名の内半数が365日ホームを利用した場合(現在は6名が利用)は、約80万円の黒字収支となった。規模の拡大とともに経営は安定化する傾向にあり、スケールメリットが活かされている。今後開設するホームについては、7名規模のユニットであれば、1か所にコーディネート職員1名を配置することが可能であると見込んでいる。

- (2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

### 【成果と課題】

月次分析に基づき必要に応じて補正予算を行い、計画的に予算を執行した。

## 8 その他の課題・目標に対する評価

### 1) 市内グループホームとの連携強化

GH・CHネットワーク小平の会において、法制度の動向や事業運営に関すること、また入居者支援に関することなどについて情報交換を行う。共通の課題等について一緒に検討することで、地域のグループホーム全体の充実を図る。

## 【成果と課題】

市内でグループホームを運営している8法人が年に5回集まり、グループホーム見学会や情報交換、学習会等を行った。各グループホームの課題や問題に対し、入居者がより快適に過ごせる方法や、グループホームがより充実した事業を運営できるように、建設的な意見やアイデアが出されている。

### 《定例会の内容》

- 4月・・・新規開設ホームの見学会、各ホームの近況報告、年間計画確認
- 6月・・・新規開設ホームの見学会、各ホームの近況報告
- 9月・・・応急手当、災害時の室内移動方法など学習会 - 講師：小平消防署隊員
- 11月・・・入居者の高齢化への対応について - 1法人からの事例報告
- 2月・・・成年後見制度について学習会 - 講師：NPO法人あらかると理事長

## 2) バックアップ施設との連携

- (1) 巡回 - 月1回バックアップ施設担当職員が巡回し入居者との交流を図る。
- (2) 行事参加 - 入居者が施設の行事に参加することにより余暇活動の幅を広げる。
- (3) 緊急対応 - ホーム職員の急なけが、病気、その他の理由により支援者が一時的に不足した際は、グループホーム施設長からの要請によりバックアップ施設職員が入居者の直接支援を行う。

## 【成果と課題】

月に1回、通所の4事業所の担当職員が3ユニットへの巡回を実施した。3ユニットの内、2ユニットは、浴場に外出の後、外食をしており、1ユニットは、毎月ホーム内でコミュニケーションを図るほか年に2回外食をしている。入居者は職員の巡回を楽しみにしており、ホームとしては、良い交流が図られていると感じている。行事参加については、一般就労している入居者1名がワークセンター夢の樹の行事に5回参加した。日頃、仲間との外出機会が少ない入居者にとって、行事の参加は楽しみの一つとなっている様子が伺えた。

## 9 実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：平成30年4月1日	至：平成31年3月31日
(1) アンダンテ		365日	
(2) クローバー		365日	
(3) 藤ハウス		365日	
(4) 花の樹		365日	

## 10 利用状況

1) 入居者延人員	6,892人
2) 一日平均利用人員	18.9人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
アンダンテ	1,084人	3.0人
クローバー	2,164人	5.9人
藤ハウス	1,662人	4.6人
花の樹	1,982人	5.4人
合計	6,892人	18.9人

## 11 入居者状況（平成31年3月31日現在）

- ・20歳以上30歳未満 1名
- ・30歳以上40歳未満 11名
- ・40歳以上50歳未満 9名
- ・50歳以上 3名

ユニット	20代	30代	40代	50代
アンダンテ		1名	3名	
クローバー	1名	1名	3名	2名
藤ハウス		4名	2名	
花の樹		5名	1名	1名
合計	1名	11名	9名	3名

## 2) 障害の状況

### (1) 障害の状況

愛の手帳2度	10名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳3度	7名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳4度	6名	(内精神保健手帳所持	1名)
身体障害者手帳1級	1名	(内愛の手帳所持	1名)
身体障害者手帳2級	1名	(内愛の手帳所持	1名)
精神保健手帳2級	2名	(内愛の手帳所持	1名)

### (2) 障害支援区分

・区分2	1名
・区分3	8名
・区分4	7名
・区分5	7名
・区分6	1名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
アンダンテ	1名	3名			
クローバー		1名	4名	2名	
藤ハウス		2名	2名	2名	
花の樹		2名	1名	3名	1名
合計	1名	8名	7名	7名	1名

## 3) 居住状況

管内居住	20名	管外居住	4名
------	-----	------	----

## 4) 性別

男性	19名	女性	5名
----	-----	----	----

## 1.2 環境の整備

事業所内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、転倒などの事故防止に努めた。

## 1.3 防災

年1回9月に災害時避難訓練を実施した。

※3月に実施しなかったことから(消防計画では9月・3月の年2回実施)、平成31年4月に実施する予定。